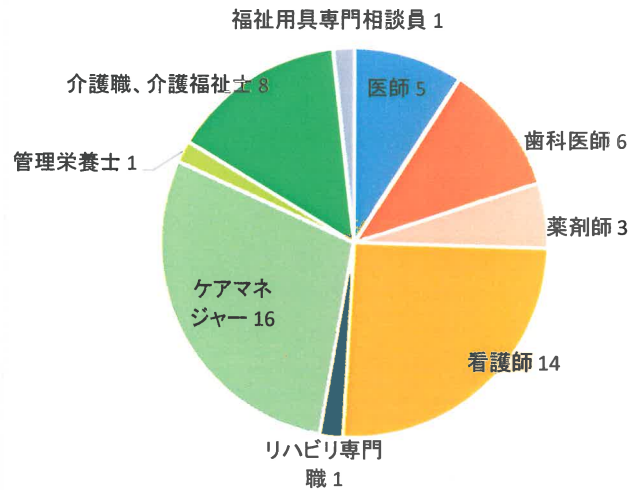


平成30年度 第2回在宅医療介護従事者研修会 アンケート

出席者 55名

医師	5
歯科医師	6
薬剤師	3
看護師	14
リハビリ専門職	1
ケアマネジャー	16
管理栄養士	1
介護職、介護福祉士	8
福祉用具専門相談員	1
計	55

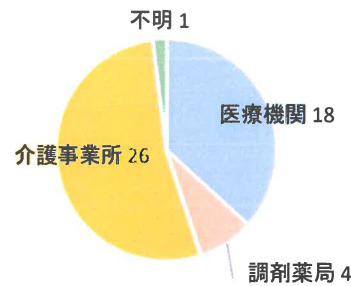


アンケート回収 49名

アンケート回収率 89%

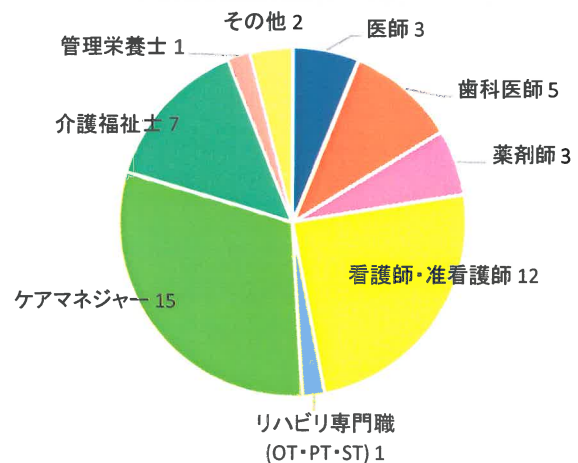
1、所属

医療機関	18
調剤薬局	4
介護事業所	26
不明	1
計	49



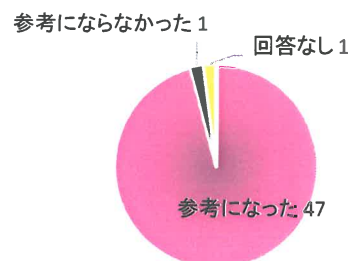
2、職種

医師	3
歯科医師	5
薬剤師	3
看護師・准看護師	12
リハビリ専門職(OT・PT・ST)	1
ケアマネジャー	15
介護福祉士	7
管理栄養士	1
その他	2
計	49



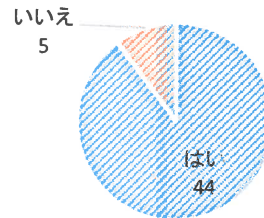
3、①本日の研修会はいかがでしたか

参考になった	47
参考にならなかった	1
回答なし	1
計	49



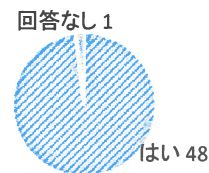
3、②常日頃、他職種の人達と連携を図ったりしていますか。

はい	44
いいえ	5
計	49



3、③グループワークにおいて、医療と介護の連携を円滑にすることの重要性やそれぞれの職種の分野についての知識を少しでも身につけることができましたか。

はい	48
回答なし	1
計	49



3、④研修を終えて、今後仕事をしていく上で、今日の内容を活かせると思われましたか。

はい	47
いいえ	1
回答なし	1
計	49



3、⑤本日の感想をご記入ください。

- 多職種連携の大切さを痛感した
- 療養デイのことが勉強になった。
- 知らない情報や意見を他職種の方々に聞ける場を提供して下さり、参加できて良かったです。今後の仕事に役立てていきたいと思いました。
- 在宅医療は大変だけど、連携・協力の上で成り立ついいことだなと思う。
- 事例があって良かったです。あと1グループ発表があった方が良かったと思います。
- 他の職種と意見交換できて良かった。
- 療養デイサービスの事例を初めて知り、良かったです。死への教育をカンファレンスで何度も話しあうことが大事と体験的にも思いました。
- 他職種の意見を聞いて大変参考になりました。
- 検討内容が少し難しかった。
- 特養に勤めているので在宅のことが知れてとても良かった。
- 新しい情報を得ることができました。
- たくさんの職種から多くの意見が聞いて本当に良かったです。
- 在宅医がどう考えているのかを聞きたかった。
- 看取り事例を検討する機会ができてとても勉強になりました。
- もっと深く考えていこうと思う。
- 異業種の方との協力が必要と改めて思いました。
- 内容が広すぎるのでもう少しテーマを決めた方が話しやすかったと思います。
- いろんな人達でまず話をすることが大事ですね。
- 普段院内の仕事のみで在宅に関わる多職種での仕事の複雑さを知らなかった事を認識できた。
- 療養デイサービスを知れてよかったです。
- 多職種による話は多方面からの意見が聞かれ、とても勉強になりました
- 多職種のスタッフと話ができて、多方面の考え方が参考になった。
- 他職種の方と情報交換、いろんなケースを聞いて参考になりました。
- 貴重な意見を聞いて良かったです。
- 自分の持った事例とよく似ていて同じような経過をたどっていた。
- 多職種の方々から知らなかった事を教えて頂き、とても充実した研修となりました。
- いろんな職種の方と話すことができて良かった。
- 他職種、他事業所の方々と事例を検討して大変勉強になった。
- 紙に書くことに時間を取られたのがもったいなかった（もっとディスカッションを重視したかった）。

- 他職種の方の活発な意見が聴けてとても参考になりました。
- 他職種との垣根を取っ払うようになりたい。
- 他職種の方々と検討できて刺激になりました

4、研修会に関する日時・場所、その他のご意見やご要望がございましたら、ご記入ください。

- このまま回を重ねて欲しい
- 今の日時が良いです
- ありがとうございました。
- 今回は医と介護の連携がうまくいかれた事例でした。次回はうまくいかなかった(過去の事例の検証)事例等学習したい。死への教育。
- 歯科での在宅の関わりを少しずつでもできるようになりたい。
- 研修の場を設けていただいただけありがたい。

事例検討

- ・ 本人と家族の意思確認
- ・ 療養デイサービス、レスパイト入院ができない場合は介護保険サービスの利用検討
- ・ 長女も巻き込んでできたのではないか
- ・ 本人に自分の症状の理解をしてもらう
- ・ 自宅退院前のカンファレンスで想定できる状況は家族にも伝えておく
- ・ 本人の苦痛の緩和

終末期におけるホスピスのニーズ

ホスピス利用のタイミングをはかるために
病状を把握したいが、進行が速い場合
タイムリーな情報収集に苦慮する

○医師

脳転移—どんな治療をしていたのか
疼痛、眠り、不安 ⇒ 薬のコントロールできていたのか

○看護師

ガン末期の方を在宅に戻すタイミング

本人 解っているけど不安が強くストレス

家族 本人の気持ちと自分自身の負担

- 本人と家族の思いの違いをどううめていくのか
 - 本人、家族が何に苦痛を感じているか
 - 市内に住む娘さんにもう少し協力して頂けないか
 - 65才という若さ、脳への転移
- ← 家族にも後悔が残らないように
- ↳ 感情のコントロールが困難なのは仕方ない

○管理栄養士

本人お好みに合わせた食事の提案
食べたいという意志がある時は答えたい
食事・口腔ケア ⇒ 娘さんの協力は可能か？

○ケアマネ

本人、家族の思いを専門職との橋渡しをする役割
ボランティア等の資源の活用を提案

○介護士

在宅へ戻る時点で幅広いサービスの提案 ⇒ 短期入院 ショートステイ

療養デイサービスが利用できないとすれば

〈本人は家で過ごしたい〉

〈妻には仕事がある〉

◎日中本人が1人のため不安にならないための援助


ケアマネ、訪問看護、訪問介護(定期巡回含む)、訪問入浴、
訪問診療、傾聴ボランティア(感情コントロール)

◎本人の希望、意向に沿える援助


(どのように過ごしたいか意思確認)

少しでも長く住み慣れた家で過ごせるように

◎気づいた点

- 感情のコントロールが
きかない方への対応
- ご家族の訴えの対応
- 恵まれた事例
- 療養デイサービスを普及
させて欲しい
- 感情のコントロール
 傾聴で対応
本人、周囲の方を傷つけたり
する時は…鎮静剤の使用を
考える

◎終末期支援において本人様と ご家族様とどのように 向き合っているか？

- 本人の意向1番
- 家族の意向2番
 家族の意向になってしまう
- 家族の意向が揺れ動くこと
によりそう
- 「本人の意向を大切にしましょう」
という関係を家族とつくる
- 家族の介護負担をねぎらう

6班

- ・気持ちよく口腔を維持していただくようにしている
- ・「何が食べたいか」を聞く。周囲にも伝え理解してもらおう
- ・口腔内に危険(歯の動揺)がないかチェック
- ・痛みの出方、薬の効果を把握
- ・疼痛コントロールに介入
- ・看護師も経済面についてもアプローチしていることが勉強になった
- ・週末のレスパイト入院ができる医療機関がある
- ・清潔支援で気持ちよく過ごして頂けるように働きかける
- ・緊急の福祉用具搬入依頼があり、すぐに対応が困難な時もあるが、できる限り早急な対応を心がけている
- ・表に出ず、黒子に徹すること
- ・関わる事業所に同時に情報提供を行うようにする

歯科医師

薬剤師

看護師

ヘルプサ責

福祉用具
相談員

ケアマネ

- ・傾聴すること.患者さんと話をする時は目線を合わせて話をする
- ・日頃みている人達に状況を聞き、情報交換を行う
- ・多職種連携
- ・どこまでアプローチをしていいか悩む時がある
- ・疼痛、苦痛の緩和を行うことが重要
- ・事例において、娘様の介入の状況も気になった

〈各職種の向き合い方〉

薬剤師

- 疼痛緩和のケア
- 心のケア

看護師

- 食事対応（家族・本人の思いに応える）
- 医療行為の実施

ケアマネジャー

- 連絡調整
- 意向の確認、傾聴

理学療法士

- 日常生活の本人、家族の動作練習・指導

歯科医師

- 栄養摂取
- 口腔ケア

介護福祉士

- 日中独居時の支援
- 様子をご家族へ伝える

- 在宅復帰支援を入院中から行う事により安心して家族も在宅での支援が行う事ができる
- 事例は医療体制やホスピスデイなど体制が良かったと思う

支援について

療養デイがなかった場合

○ 介護ヘルパー

(身体介護・食事援助、排泄・保清援助
訪問入浴・介助入浴)

○ 家族の介護力

家族間の連携

(長女の協力が得られるよう傾聴しながら支援する)

感情のコントロールが効かない方への対応

- まずは傾聴 → 信頼関係を築く
- 原因を探り改善策を見いだしていく